

大腸内視鏡検査についての説明

【目的】

大腸に大腸癌やポリープ、腸炎などがないかを調べます。

【大腸内視鏡検査の流れ】

- ・検査の際は点滴を行い軽い鎮静剤を投与した上で検査を行います。

検査の所要時間は約 30 分前後ですが、内視鏡が入りにくい方は時間がかかることがあります。

- ・内視鏡とともに空気が大腸に入り、おなかが張ることがあります。
- ・検査中おならをしていただくことで、苦痛が軽減されるとともに検査が行いやすくなります。

【大腸ポリープを認めた際】

- ・医師の判断により検査と同時に組織検査をすることがあります。

その際は、費用が保険適応に切り替わります（一万円～二万円前後）。

- ・健診では、切除後の出血のリスクが高いため、ポリープ切除は行いません。ポリープ切除が必要な場合は、外来、あるいは専門医療機関をご紹介致します。

組織検査をした後、排便時に出血があった場合は、止血処置が必要になることもあるため、

ご連絡の上、ご来院ください。

【大腸検査・処置について】

大腸内視鏡検査は比較的安全な検査ですが、まれに出血や穿孔等の合併症が起こることがあります。

出血：組織を部分的に取る検査をした所から出血することがあります。

通常、出血は少量で自然止血しますが、内視鏡による止血や輸血が必要となることがあります。

穿孔：ごくまれに腸管の癒着等があったり、挿入困難例で穿孔を起こすことがあります。

その場合は直ちに入院して開腹手術、人工肛門などの処置が必要となることがあります。

また検査の前に下剤を内服しますが、腹痛、腸閉塞、腸管穿孔などが極めてまれに起こる可能性があります。下剤内服で腹痛等があった場合は、内視鏡センターにご連絡ください。

検査担当医は、少しでも苦痛が少なくより安全に検査できるよう努力します。

【臨床研究について】

今後の医療のため診療で得られた診療情報、データ、血液などを利用して臨床研究を行い、学会発表や論文発表を行う事があります。その際には個人が特定できないように匿名化され、個人情報は保護されます。臨床研究については武藏野赤十字病院のホームページ上に公開されています。臨床情報を利用してほしくない場合には申し出いただければ利用しません。またその際にも通常の診療や検査には影響はありません。

【内視鏡の中止について】

検査当日の体調や、排便状況、問診内容で、安全に検査ができないと医師が判断した場合や
検査中安全に検査ができないと判断された場合、あるいは検査中の合併症が疑われる等、
検査の続行が危険と判断された場合は、内視鏡検査を中止する場合があります。